

ワクチン有効性95%の意味

コロナ騒動の当初、テレビでは、新型コロナ感染症の脅威があおられ、ワクチンこそが切り札と、盛んに喧伝されていました。

当時、ワクチンの有効性は95%あり、ワクチンの2回接種で、集団免疫が作られ、コロナは終息すると言われていました。

それを信じた多くの人々が、接種会場に並ぶことになったのです。

95%と聞くと、効果は絶大、と思うのも無理はありません。



でも、これは...
 接種することで、感染を95%抑えることができるという意味ではありません。
 また、100人が接種したとして、95人に効果があるという意味でもありません。

95%というのは、ファイザーでの臨床試験に基づいたものです。
 臨床試験では、本剤(ワクチン)を使用するグループと、偽薬を使用するグループとに分けて、その差で有効率を算出します。

<偽薬(生理食塩水)を接種>

生理食塩水を、21,728人に接種、そのうち162人が感染しました。

$$162 \div 21,728 \times 100 = 0.7456 \text{ (約0.75\%)}$$

<本剤(ワクチン)を接種>

ワクチンを、21,720人に接種、そのうち8人が感染しました。

$$8 \div 21,720 \times 100 = 0.0368 \text{ (約0.04\%)}$$

では、有効性95%とは、どのように算出しているのかというと

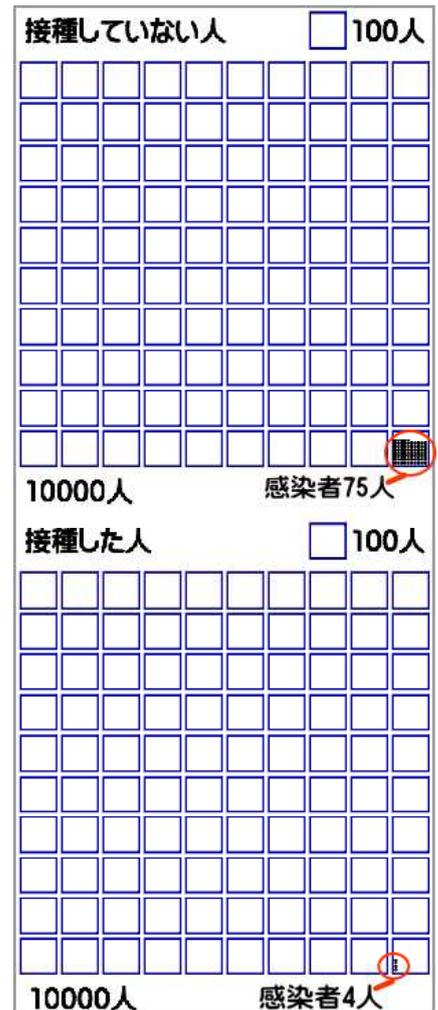
$$1 - (8 \div 162) = \text{約}0.95 \quad 0.95 \times 100 = 95\%$$

これは、感染した人が、もし接種していれば、95%は防げたかもという意味になります。

これを、10,000人あたりで換算すると、右のような図になります。

非接種者の感染者数 $10,000 \text{人} \times 0.75\% \div 100 = 75 \text{人}$

接種者の感染者数 $10,000 \text{人} \times 0.04\% \div 100 = 4 \text{人}$



このように算出したものを「相対リスク比」と言います。
でも、この値は、事実を反映したものではありません。
ほとんどの人は、ワクチンを射たなくても感染しないという事実があります。
その事実を除外することで、95%という高い値(有効性)をたたき出しているのです。

これに対して、「絶対リスク減少率」というのがあります。
こちらのほうが、より事実に合わせているといえます。

ワクチンを接種した場合に、感染を防げる確率は、 $100\% - 0.04\% = 99.96\%$
ワクチンを接種しない場合に、感染を防げる確率は、 $100\% - 0.75\% = 99.25\%$
ワクチンを接種した場合と、接種しない場合の差は、 $99.96\% - 99.25\% = 0.71\%$

つまり、ワクチンを接種したところで、リスクは0.71%しか低下しないということになります。
この0.71%を、計算方法によっては、95%まで、かさ上げできるのです。
多くの人が、この0.71%と引き換えに、大きな接種リスクを抱え込むことになったのです。
これは数字のトリックですので、騙されないようにしましょう。

起こっている事実に向ける

ややこしい数字の話になりましたが、実は、こうした話は、さほど重要なことではありません。
それより、臨床試験は正しく行われているの？ 根拠になっている数値は正しいの？
というような根本的な問題があります。
製薬・医療界には、科学をよそおった最もらしいエビデンス(科学的根拠)がまかり通っています。
不正をチェックする仕組みが無いのですから、論文の捏造なども、やりたい放題です。
逆に、真実のエビデンス(不都合な真実)には圧力がかかり、表に出てくることはありません。
テレビや新聞では、そんな偽装エビデンスが真実として、報道されることとなります。
そして、異なる(真実の)主張には、陰謀論というレッテルが貼られ、覆い隠されてしまうのです。

現実の世界は正直です。

ワクチン接種が始まり、途端に、コロナの感染者が増えました。
そして、政府も、しぶしぶ、「ワクチンには感染予防効果は無い」ということを認めました。
それから、「感染は予防できないが、重症化は防げる」という詭弁が始まりました。
そして、带状疱疹やインフルエンザ、肺炎、手足口病など、あらゆる感染症が増加しました。
ワクチンが始まってから、超過死亡数も激増中です。
これらは、誰もが感じる可笑しい出来事であり、事実なのです。
自らで見た、感じた、体験した、確かめた事実こそ、確度(正確さの度合い)の高い情報です。
マスメディアの不確定な情報は排除し、確定的事実のみで判断するようにしましょう。